

# パネル展「川辺の鳥たち」

千葉県立関宿城博物館は、利根川と江戸川という二つの川に挟まれた環境にあります。特に利根川は日本で最大の流域面積を誇る河川であり、その変化に富んだ流れや周辺の湿地、水田などの環境に応じて多様な鳥たちが生息しています。今回の展示では、利根川中流域から下流域、及びその周辺の湿地で生活している鳥たちを写真で紹介します。

なお、本展示の開催にあたりましては、千葉県立中央博物館で鳥類研究を専門とされている桑原和之氏に多大なるご協力をいただきました。さらに、各地域で長年にわたり野鳥の観察・撮影を続けてこられた多くの方々から、貴重な写真をお寄せいただきました。

本展が、身近な鳥たちや自然の営みに改めて目を向けていただくきっかけになれば幸いです。

## 1、飛来するカモたち

カモの多くは、冬鳥です。秋から春にかけて、いろいろなカモたちが飛来します。



### マ ガ モ

撮影地：我孫子市利根川ゆうゆう公園

撮影日：2022.2.16

撮影者：長沼和夫

冬鳥。水の中に潜って、餌を探します。

## 2、水田のサギやクイナたち

水田には、サギやクイナの仲間が多くみられます。湿地に多く生息していたバンなどの個体数は少なくなりました。オオバンの越冬数は増加しているようです。



### オオバン

撮影地：印西市発作 手賀沼と利根川を結ぶ水路  
撮影日：2021.2.27  
撮影者：長沼和夫

冬鳥。体が真っ黒、くちばしが白色です。繁殖数が減少しています。

## 3、少なくなったシギやチドリの仲間

春の渡りの時期、利根川やその周辺には、チュウシャクシギやムナグロなどが数百羽、飛来していました。かつてシギやチドリの群れは、渡り鳥の中継地である水田でもよく観察できましたが、現在、その数は極端に減りました。



### クサシギ

撮影地：野田市清水 清水公園近く  
撮影日：2022.1.17  
撮影者：浅井美紅

冬鳥。秋から春、湿地で採食します。

## 4、身近な鳥・河川敷の鳥

カラスの仲間やツバメ、スズメ、ムクドリ、ハクセキレイは、私たちの身近な場所でみることができます。夏には、ヨシキリやホオジロの仲間がみられます。川辺は、身近な鳥たちを観察するには、とてもいい場所です。



### ハクセキレイ

撮影地：野田市 関宿城博物館周辺

撮影日：2022.1.17

撮影者：岡田光広

留鳥。地面で餌を探します。

## 5、小鳥が多いと猛禽類も多い？

小鳥が多い川辺では、フクロウ、タカやハヤブサの仲間などの猛禽類もみられます。猛禽類の多くの種は、個体数が減少しており、千葉県では保護上重要な野生生物として指定されています。



### コミミズク

撮影地：柏市新利根

撮影日：2004.1.17

撮影者：高島齋二

冬鳥。秋から春、湿地で採食します。東京湾奥部の埋立地では、普通にみられていましたが、個体数が激減しました。

## 6、海辺の鳥たちが川辺に飛来

利根川では、カモメやアジサシの仲間もみられます。カモメ類は秋から冬に多く、アジサシの仲間は、春から秋に多くなります。荒れた天候の後、利根川やその周辺でウミツバメやヒレアシシギなどの海鳥が保護されることもあります。



### セグロカモメ

撮影地：野田市関宿台町地先 利根川 境大橋

撮影日：2017.3.8

撮影者：東海林和之

冬鳥。冬になると、博物館の近くの境大橋などで見かけることがあります。

## 7、調べることがまだたくさん

局地的に分布していて世界的に見てもとても生息数が少ないコジュリンやオオセッカといった種が、利根川水系の湿地で繁殖しています。この2種の詳しい生態は調べられていませんが、繁殖地は減少していて、繁殖期の個体数は減少しています。博物館のまわりでどんな鳥たちが生活していて、何羽くらいいるのでしょうか？調べることは、まだたくさんありそうですね。



### コジュリン

撮影地：成田市大竹 印旛沼北部調整池周辺

撮影日：2015.6.18

撮影者：長沼和夫

一年を通して見られます。利根川下流域で繁殖しています。オスは、頭が黒く目立ちます。